

仙台市議会第四回定例議会報告



新年おめでとござい
います。今年もよろ
しくお祈りします

令和三年第四回定例市議会は十二月二日開会、一七日に終了、新型コロナ対策、経済対策のための一般会計補正予算など、二五件の議案審査を行いました。補正予算案では、新型コロナ対策として、ワクチン接種費の追加、米価下落による生産者の経営継続のための支援金、公共交通の運行継続奨励金が盛り込まれました。また、幼稚園が二歳児の預かり保育を実施する場合の施設改修費への補助が計上され、補正総額は四一億四・八

〇〇万円となりました。ガス事業会計においては、原料価格高騰への対応策として、棚卸資産を三八億円増額する案が提案されました。条例改正案では、沖野デザイナーズセンターの廃止、将監市民センター・児童館・老人憩いの家三施設を極めてまれな合築整備するための関連条例、市中部の小売店舗等に淵が義務付けられている自転車駐輪場規制緩和に関する改正案が提案されました。工事請負契約に関しては、七北中学校の増改築、高砂西市営住宅エレベーター設置工事が計上されました。その他、戦災復興記念館、葛岡斎場、十二児童館、子育てプラザ、中小企業活性化センター、陸上競技場、榴ヶ岡図書館等の指定管理者の指定に関する件も提案されました。

臨時国会での岸田総理判断が二転、三転したが、十万円一括給付がなんとか年内給付に安堵

臨時国会に三五兆円の補正予算が提出され、その中に住民税非課税世帯等への臨時特別給付金、子育て世帯等への臨時特別給付金、エネルギー価格高騰への対応などが盛り込まれ、それを受けて総額二三八億七・三〇〇万円の追加補正案が提案されました。非課税世帯への一〇万円給付世帯数は一〇万九千世帯、生活保護世帯一万五千世帯、コロナ禍で家計が非課税世帯と同様となった世帯約三万五千世帯見込み、子育て世帯等への臨時特別給付金は、一八歳以下の子供が対象で、児童手当支給世帯への給付方法を基準として、一〇万円十二月二十四日に一括振り込むことができました。住

成金として一世帯五千元、また、福祉施設等への冬季暖房用燃料費助成金(定員一人当たり八千三百円)を支給することとなりました。その総額は、十一億二千二百万円余が計上されました。中小企業へは融資制度による資金調達支援や窓口相談、農業者に対しても窓口相談等による支援などにも取り組むこととしています。



小山勇朗議員は一般質問に於いて、トーキン前の都市計画道路・郡山折立線について、歩道を含めた道路拡幅の整備、更にはあすと長町の諏訪交差点の改良改善を求めました。また、今後、四郎丸小学校の建て替え工

事が終了する時期に合わせて、袋原小学校に在籍している児童、約二〇〇名を学区割の変更と合わせ四郎丸小学校に在籍替えすることになっていますが、新たな通学路として袋原落合線と交差するカット創まへの交差点が危険ということで、地域の皆さんで信号機の設定等を求め、十二月二十三日の午後三時信号機の点灯式を行い一つは解決していますが、横断歩道の待機場所が狭く、側溝にふたをかけたガードパイプを撤去して広げるよう市に求めています。

秋保・湯元市民センターの老朽化に伴う改修か建て替えかを強く求めましたが、当面、の対策として会議室へのエアコン設置、トイレの改修、屋根や外壁の部分的改修の回答に終始し、新たな考えとして秋保中学校区に三つの市民センターがあり設置基準を持ち出しています。
秋保ビクターセンターのトイレや休憩スペース改善については、令和五年度の大規模改修工事において行う事となります。

その他にも水道の水管橋維持管理対策、小中学校へのデジタル教科書導入に対する考え及び対応、市営住宅希望者増にこたえる制度の改善・対策について質問しています。

四病院（県立がんセンター、県立精神医療センター、仙台日赤病院、東北労災病院）の統合・合築に関する質問と意見交換内容、

去る十二月二十二日午後六時から行われた自治労県本部及び県病院労組、県職労、仙台病院労組、岸田県議、樋口仙台市議と宮城県保健福祉部医療政策課の課長、課長補佐との質問・意見交換の内容であります。

質問・四病院統合・合築後の運営負担金は現在の金額と比較してどのくらいになるのか。

答・四病院の統合・合築について、新しい病院の医療機能や診療科目、病床規模、運営主体など具体的な内容は今後の協議と

なる、現時点での運営負担金については試算はしていない。運営負担金は地方独立行政法人法に基づき、収入を以て充てることのできない経費について、設立団体として負担するものであり、県の負担金の財源としては、国の基準に基づき地方交付税措置されている額に県が独自に上乗せして支出している。救急、災害などの政策医療は、不採算部門が多く、必要な医療サービスを継続的に提供できる経営基盤とすることが重要である。県としては、政策医療を維持するための財政支出については、引き続き対応していく。

質問・統合後のがんセンターと仙台赤十字病院の経営形態はどう考えているのか。

答・県立がんセンターと仙台日赤病院の統合について具体的な内容は現時点では決まっていない。

質問・名取市、富谷市が提示した土地の具体的な場所は。

答・土地の具体的な場所は提示

されていない。

質問・精神医療センターは、これまでの泉南地域で医療を提供してきたが、富谷市を含めて仙台以北に移転するメリットとデメリットをどう考えているのか。

答・メリットとしては、身体症状を伴う患者への対応力の向上を含め、精神医療の基幹病院として、全県をカバーする精神科救急体制を強化することができること。デメリットとしては、現在地から移転することにより、患者や職員の方々の通院や通勤の負担が増加する可能性がある。かかりつけ医との連携などの面での影響が大きい。県としては、地域の病院やクリニックと連携しながら県内の精神科医療体制の全体的向上につなげられるよう取り組むとしています。

今回の掲載はここまでとなりましたが、今後も機会をとらえながら継続していきます